

猫はなるべく室内で飼うようにしましょう！

家の中と外を自由に行き来するイメージがある猫。

しかし現在本土では、飼い猫の7割が室内で飼われているそうです。

猫を外に出すと、交通事故や伝染病など危険もいっぱいですし、公園の砂場や他人の庭にフンやおしっこをまき散らしてご近所迷惑になるという理由からだそうです。

しかし、猫を家の中に閉じ込めておくと爪とぎで家具がぼろぼろになったり、部屋のいたるところにおしっこをかけたり…。

猫の完全室内飼いは簡単ではありませんが、次のことを参考にして「猫の室内飼い」を目指してみてください。

インターネットでも「猫の室内飼い」のいろいろな方法が紹介されています。

猫 室内飼い

検索



まずケージ(檻かご)に入れる。

外に自由に出ていた猫は、外に自分の縄張りを持っています。

まずケージの中に入れて、かつての縄張りをあきらめさせます。

ケージになれたら部屋に出す。

ケージから出た後は、家の中が縄張りになります。

外に出たがっても絶対に出さない。

一度でも出せば、かつての外の世界が恋しくなり、外に出る習慣がついてしまいます。



室内でのトイレ

ペット用のトイレを用意し、外でおしっこしていた場所の砂を探してきて入れます。

自分の臭いがすれば、猫はそこが自分のトイレだと認識します。おしっこをキッチンペーパーなどで吸収して、それをトイレに入れても有効です。根気強く何度も行いましょう！

室内での爪とぎ

市販の爪とぎ器を、猫が立ち上がった前足の高さに設置、猫の肉球をこすりつけて臭いをつけます。爪とぎをされて困る場所には、両面テープを貼れば、猫は両面テープのベトベトを嫌がり、そこで爪とぎをしなくなります。

室内での運動

室内飼いは運動の機会が少なく、ストレスもたまりがちです。1日15分は猫じゃらしなどで遊んであげましょう。

また、猫は広さよりも高さを好みます。市販の「猫タワー」や家具などを利用して、上下運動しやすい環境と整えてあげるのも効果的です。

オス猫のスプレー行為 (縄張りを示すために強い臭いのおしっこを吹き付ける行為)

不妊去勢手術でなくなります。発情(繁殖)のストレスからも解放され、おとなしい性格の猫になります。

ただし、全ての猫がこの方法で室内飼いにできるようになるとは限りません！

室内飼いが無理なら、せめてフンやおしっこは自分の家(トイレ)で済ませてから外に出し、迷子札も付けて、ご近所の迷惑にならないように飼うようにしましょう！